

# 北九州 歷史文化遺產

地域の誇り、歴史文化遺産。毎号1つのスポットを見つめ、歴史秘話と共にご紹介します。

第十四回 遠賀堀川



JR 折尾駅前の市街地を流れる堀川

R 折尾駅前にこの街の象徴とも言える堀川はある。江戸時代、福岡藩が掘削した遠賀川と洞海湾を結ぶ運河。かつては石炭や農産物などを運ぶ「川ひらた」（五平太船とも呼ぶ）が通っていたが、今は生活用水などの排水路と化した。その堀川を見直す機運が高まっている。

## 黒田長政の命で 開削

周囲より高い天井川。大雨で氾濫が絶えず、初代藩主黒田長政自ら現地を視察し、遠賀川から洞海湾までの運河開削を決めた。だが一六二年の着工の2年後、長政が死去、藩財政の窮迫などから工事は中止された。再開したのは一七五一年。当初計画のルートは地盤が軟弱だったことから再開時は堅い岩盤の「車返し」の地（現・水巻町吉田東）の開削に変え、福岡城を築いた

石工らを動員し4年がかりで切り抜いた。遠賀川からの取水口は中間唐戸（からど）（現中間市）で、一七六二年に開通した。その後、取水口を上流の寿命（現・八幡西区楠橋）に移して一八〇四年、洞海湾まで長さ12.1キロ、平均幅1-1トメル、深さ1.8~1.5メートルの現在の運河が完成した。長政時代の着手から実に183年の年月だった。

この開通により周辺16か村計480戸の水田が潤い、第3年（一八九九）、年間13万俵余りが通つたと記録されている。その石炭が八幡製鐵所の誕生産業近代化を促した。

「折尾市街地ではヘドロが膝の上までたまつて悪臭がし、炭酸ガスが噴き出し、川が泣いていました」と近くに住む中村恭子さん（72）。「どうにかしなければ」と有志4人で平成14年、ヘド口除去、水質浄化のEM菌団子の投入などを始めた。運動はやがて折尾の全域に広がり、今、市街地にもようやく魚が戻ってきた。今秋には、その流れに川ひらたを浮かべて堀川復活をアピールし、運動盛り上げを計画し

## 堀川に新たな役割 市民とともに

水運の役割は一八九一年芳

「折尾市街地ではヘドロが膝の上までたまつて悪臭がし、炭酸ガスが噴き出し、川が泣いていました」と近くに住む中村恭子さん（72）。「どうにかしなければ」と有志4人で平成14年、ヘドロ除去、水質浄化のEM菌団子の投入などを始めた。運動はやがて折尾の全域に広がり、今、市街地にもようやく魚が戻ってきた。今年秋には、その流れに川ひらたを浮かべて堀川復活をアピールし、運動盛り上げを計画している。「いづれは観光船も浮かべたい」と中村さん。

## イベントカレンダー

<p><b>6月</b></p> <p><b>4日 5日 折尾まつり</b> 4日17:30～21:30 5日10:30～17:30 折尾西公園</p> <p><b>4日 5日 第28回 とばた菖蒲まつり2016</b> 11:00～16:00 夜宮公園のびのび広場と周辺一帯</p> <p><b>18日 19日 若松あじさい祭り</b> 10:00～16:00 高塔山公園 佐藤公園 若松商店街一帯 ほか</p>	<p><b>7月</b></p> <p><b>5日(祝) 戸畠祇園山笠</b> 浅生1号公園周辺 他戸畠区内</p> <p><b>9日 10日 筑前木屋瀬祇園祭</b> 10:00～21:00 須賀神社</p> <p><b>15日～17日 小倉祇園太鼓</b> 小倉城大手門前広場および小文字通り周辺</p>	<p><b>17日(日) 門司港ポート天国</b> 9:00～15:00 門司港レトロ 西海岸地区</p> <p><b>22日 23日 レトロの夜「門司港ビアフェスタ」</b> 門司港レトロ中央広場</p> <p><b>22～25日 黒崎祇園山笠</b> 八幡西区 黒崎地区</p> <p><b>30日(土) 平尾台観光祭</b> 平尾台自然の郷</p> <p><b>30日(土) くきのうみ花火の祭典</b> 20:00～20:40 ※荒天中止 洞海湾 (若戸大橋周辺及びエルナード)</p> <p><b>30日 31日 若松みなと祭り</b> 若松中心市街地</p>
---	--	---